

令和5年度の全国学力・学習状況調査における上中学校の調査結果

今年度は、4月18日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。教科に関する内容については今年度の結果を無回答率にも着目して分析し、学習状況については今年度の市内・奈良県・全国の中学校の数値と比較しながら、本校の今年度の傾向を考察しました。

教科に関する調査結果の概要

国語・数学・英語のすべての教科で平均正答率・個々の領域別においてもすべて生駒市・奈良県及び全国を上回っています。アンケートの回答からも、各教科を学ぶことが大切だと感じている生徒の割合は高く、「授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問には特に英語は90%以上の人がそうとらえていることが分かりました。

国語は、知識及び技能よりも思考力・判断力・表現力等、その中でも書くこと・読むことに関する問題に課題があることが分かりました。

読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるかどうかを問う問題では選択式での回答でも正答率は56%でした。

文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることができるかどうかを問う問題は、記述式となると無回答者は10%を超え、正答率は52%と全国平均とほぼ同じであることから、文章の構成や展開表現の効果について考えることに課題が、また実際に文章を書いてみて様々な表現を行うことへの課題があると考えられます。昨年同様、書くことに苦手意識をもっている結果と同じ傾向であり、書く力をつけるために、学習内容を工夫し自分の課題を分析し主体的に取り組む姿勢を身に付けさせるための工夫が必要であると考えています。

数学については、全般的に理解度は高いですが、昨年同様資料の活用分野が正答率は50%をきっています。とくにデータの根拠を数学的な表現で説明する問題は、正答率は最も低く無回答率も10%を超えており、これからの社会でも資料を活用しデータを読み取る力をつけることが重要になってくることと考えています。また、結論が成立するための前提を見つけ出し説明することや、条件を変えた場合、事柄が成立しなくなった理由を述べたりする記述式の問題は、無回答率は10%を超えており、考えをまとめて整理して書くことが課題であると考えます。

英語については、全体の正答率は約62%ありますが、記述式の設問には、正答率はその半分にも満たない結果であり、無回答率も10%を超えていました。特に自分の考えとその理由を述べる問題での社会的な話題だけではなく、日常的な話題に関してもその事実や自分考えを整理して書くことに課題が見られました。

「話すこと」調査でも社会的な話題や聞いたことについて自分の考えとその理由を述べること[発表]は、正答率が最も低い結果でした。

3教科とも、社会的な話題や、日常的な問題などに対して、自分の考えを整理して述べることに共通した課題があることが分かりました。

今回の調査では社会的・日常的な話題について自分の考えをまとめて書く問題の正答率は低く無回答率が高い結果となっていましたが、約60%の人が「最後まであきらめずに書こうと努力した」という結果がでています。

新聞を読む、読書の時間などへの質問結果を見ると、社会的な問題や日常的な問題への正答率が低い原因とも考えられる要素です。

新聞から社会情勢を捉えたり読書を通して、文章の書き方や表現の方法を学んだり、またそれらを通して自分の考えを述べたり、書いたりすることを主体的な学びへとつなげていけたらと考えます。

生活について

基本的な生活習慣(1)(2)(3)

今年度も生徒は90%以上毎日同じぐらいの時刻に起きて朝食を食べていること、毎日同じぐらいの時刻に寝ている生徒は80%以上であり生活習慣は定着しているように思います。

行動や考え方について

●自己肯定感(4)(5)(7)(10)

「自分に良いところがあると思う」と答えた生徒は、80%を超えてはいますが、「当てはまらない」と答えた生徒も5.2%、「どちらかといえば当てはまらない」を加えると15.1%います。学校として引き続き自分の良さを認められる取り組みを続けていくことが必要だと考えます。

「将来の夢や目標を持っている」生徒は全国や奈良県と比較すると低く「どちらかといえば当てはまる」を加えても60%を下回っています。

「困りごとや不安がある時に、学校にいる先生や大人に相談できる」と答えた生徒は62.5%と全国や奈良県と比較しても低いことから、「先生はよいところを認めてくれている」と答えた生徒の割合が84.9%以上になるように、生徒にとっていざという時に支えになれるように、普段からさらに意識を高く持って生徒たちと接する事を心がける必要があると考えます。

●人権意識(8)(9)(11)

「人が困っているとき助けている」と答えた生徒は90%以上であり、93.7%の生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」ことだと考えています。しかし今もいじめ事案はなくなっておりません。引き続き生徒たちの声に耳を傾け、全員がいじめを許さないと考えように取り組んでいきます。また93.2%の生徒が「人に役立つ人間になりたい」と回答していることは、これからの社会を支えていくことへの意識の表れであると考えます。

●学校生活の充実(12)(13)(14)

「学校に行くのは楽しい」は昨年度より5%以上高くなっている。また「友達関係に満足している」は90.1%で、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」81.2%、と学校生活が充実していることはうかがえる反面、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒への思いに寄り添った対応も必要であると考えます。

学習について

●学習時間(16)(17)(18)(19)

学習時間は平日では2時間以上が65.6%、休みの日は2時間以上が60%と全国の平均と比較しても20%以上の差があり、平日・休日ともに学習に対して一生懸命取り組んでいる様子がうかがえます。自分で計画を立てて学習している生徒は61%で全国とも同程度の割合であり、「学習塾や家庭教師の先生に教わっている」と答えた生徒は80.7%であることは自主的な学びというよりむしろ与えられた課題への取り組みが多いことも考えます。

一方で、学習に対して苦手意識を持つ生徒や取り組み方がわからない生徒などに対する支援については、昨年同様、学校サポーターとの協力も得ながら放課後学習などを活用し、さらに支援の場を広げていきたいと考えています。

また80%以上の生徒は「先生は授業やテストなどで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれる」と回答しており、これからも学校は丁寧な授業を心掛けていきたいと考えています。

●読書活動について(20)(21)(22)(24) 新聞について(23)

本校では朝読書を実施し、読書習慣の定着を図っていますが、平日に30分以上読書をしている生徒は21.3%、10分より少ない・全く読まない生徒は合わせて56.3%います。家に本のある環境が整っている家庭が多いこともあり、約50%の生徒は学校図書館や地域の図書館にほとんど・全く行かないと回答しています。読書好きな生徒も64.5%いることから、本を読まないのではなくそれ以外に時間を取られている可能性も考えられます。

「新聞を読んでいますか」の質問には「ほとんど・全く読まない」と79.2%の生徒が答えています。現在新聞のデジタル化や新聞を紙面で購読していない家庭も多くあると考えられますが、やはり活字離れをなくすためにも、また社会情勢を自ら知るためにも新聞を読むことは大切にしてほしいと考えています。

●部活動について(25)(26)(27)(28)

運動部・文化部合わせて86.3%の生徒が参加しており、平日は4日～5日、1時間から3時間より少ない時間、土日は4時間より少ない活動時間である結果となりました。熱中症対策を常に考え限られた時間で充実した活動になるよう取り組んでいきたいと考えています。

●ICT活用(33)(34)(35)

タブレットの使用状況については、授業では週3回以上使用されていること、また約90%の生徒は学習の中でPC・タブレットの活用は勉強のために役に立つという回答結果でした。また学校の授業以外で平日のタブレットの使用状況では1時間以上使用している生徒は約10%であり、自主的に学習に用いていることは少ない状況であることは分かりました。発展的な学習に用いることができれば良いとかがえませんが、学習についてまとめた通り、与えられた課題に対して時間が費やされているとも考えられます。まずはいつでも自主的な学習に使用できるツールとなっていればと考えています。

●学習活動(36)～(46)

これまでの学習をいかして、また学級の生徒と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり発表させたりすることは全国とほぼ同じ値ではありますがまだまだ十分とは言えないと考えています。また今までの学習を見直し次に続けることや他の学習にいかしていくことも「当てはまる」と答えた生徒は約2割の生徒であり課題と考え、各教科の横断的な学びについて考えていく必要があると考えました。

総合的な学習では課題を設定して調べて発表するなど、学級活動では互いに話し合い、それらを活かして自分がすべきことを取り組むことや、道徳の時間では学級やグループ活動を通して自分の考えも深めていけるようになってきた生徒の割合は昨年度同様少しずつ高くなってきています。

地域とのつながりについて

●地域貢献(29)(30)世界とのつながりについて(31)(32)

地域行事の参加は、今年度は開催されたものもありますが、「どちらかといえばあてはまる」をふくめて40%弱でした。本校でも学校サポーターとして地域の方に協力していただくことが増えてはいるものの関わる機会は少なく「当てはまる」は12.5%と低い状況です。しかし約75%の生徒は「地域や社会のためになにかしてみたいことがある」と考えています。今年は地域の行事ボランティアとして活動してくれた生徒もいました。今後地域の方と協力し積極的に参加できる機会を工夫し貢献できる機会をふやす方法を考えていきたいです。

約68%の生徒は、自分たちが住んでいる地域や日本のことを外国人に知ってもらいたいと考えておりまた外国人と友達になり、国のことについてもっと知りたいと約65%の生徒は考えていることも今回の調査で分かりました。本校の総合の「ふるさと生駒」の学習をより深めていきたいと考えます。